

2月3日(火)

令和八年度
A日程入学試験問題

国
語

— 注 意 事 項 —

- 2 1 問題は1ページから30ページ、解答用紙は一枚である。
次の指示にしたがうこと。
- 4 3 文学部（日本文学科・中国文学科・史学科）は**1・3・4**を解答すること。
文学部（外国語文化学科・哲学科）、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、
観光まちづくり学部は**1**が必須、**2・3・4**から一つを選択して解答すること。
（解答する問題番号を、解答用紙のマーク欄にマークすること。選択問題を複数解答
した場合は無効とする）
- 4 3 解答はすべて別紙解答用紙に記入すること。
試験時間は六〇分である。

省略 の箇所は、著作権の都合上省略しています。

1

〔全学科の必須〕

文学部日本文学科・中国文学科・史学科は解答欄 1 ～ 11 に、文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は解答欄 1 ～ 17 に解答すること。

（文学部日本文学科・中国文学科・史学科は問一～問八で40点）

（文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は問一～問十四で70点）

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

省 略

省 略

省 略

(注) ○ロマンティック―ここでは「ロマン主義派の人」の意。

○「背徳者」―アンドレ・ジッド作の小説。

省 略

○ディレンマー葛藤。 ○薩長―薩摩藩と長州藩。 ○デカダンス―退廃。

問一 二重傍線部 (1)・(2)・(3)・(4) の意味として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、(1) は解答欄 1 に、(2) は 2 に、(3) は 3 に、(4) は 4 にマークしなさい。

- | | |
|---|--|
| <p>(1)</p> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; margin: 0 auto; padding: 2px;">1</div> <p>ア 目的外の使用をすること
イ 巧みな使い方をすること
ウ 肩代わりをさせること
エ 強引に使いこなすこと
オ 考えの助けとすること</p> | <p>(2)</p> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; margin: 0 auto; padding: 2px;">2</div> <p>ア 布を真っ白にすること
イ 海で波に流されること
ウ あちこちに顔を出すこと
エ あてもなくさまようこと
オ 言葉に表して述べること</p> |
|---|--|

- | | |
|--|---|
| <p>(3)</p> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; margin: 0 auto; padding: 2px;">3</div> <p>ア 自由奔放に行動するさま
イ あちこちで衝突するさま
ウ 世間から見放されるさま
エ 支配権力に抵抗するさま
オ 規則がいいかげんなさま</p> | <p>(4)</p> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; margin: 0 auto; padding: 2px;">4</div> <p>ア ゆるやかな制約のある状態
イ 行きづまって進めない状態
ウ のんびりと一休みする状態
エ 閉じられて安定した状態
オ 空っぽで中身がない状態</p> |
|--|---|

問二 傍線部 (a) の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 5 にマークしなさい。

- ア 神や自然の内面にこそ真実はあるが、それによって個人の自主性が奪取されてきたという結果を批判的に捉える宗教重視の考え。
- イ 個人の思想や感情が他に対して表現を求めるのは、ルネサンス期に人間の発見があったことに契機があるという人間重視の考え。
- ウ それぞれの個人の内面には真実が存在しており、その内面にあるものをそのまま外部に出せば表現になるという個人重視の考え。
- エ 内面的真実が適切で妥当なものであるかどうかは、その内部に隠れているものと対照すれば明らかになるという精神重視の考え。
- オ 個人の内面を重視する十九世紀の支配的行動原理は、ルネサンス以来の歴史によって得られた成果であるという歴史重視の考え。

問三 傍線部 (b) の理由として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 6 にマークしなさい。

ア 善心が悪行をなし悪心が善行をなすというのは行為と内面とが一致していないことになるが、そのような不一致がありえないとすれば内面についての認識が間違っているはずであり、そのような間違った認識をすることは悪しき行為とされるから。

イ 邪悪な行為は邪悪な内面を反映しているはずなので当然罪悪となるが、仮に内面が邪悪でないのに悪行をなしたり、内面が邪悪であるのに結果的に善行をなしたとしても、それは内面と一致していない表現を行ったことになるのでやはり罪悪となるから。

ウ 自分自身が行為的表現の主体であり責任者であるのだから、たとえ善心が悪行をなし悪心が善行をなすというような内面に逆行する行為が行われたとしても、結局は起こった出来事のすべてについて自分が全責任を負わなければならないことになるから。

エ 実際には悪しき行為のほとんどは運命に左右されるものであって個人に責任はないはずなのだが、近代人はすべて自分の心が不完全であつたための過失として責任を引き受けなければならないので、どんな行為であつても悪しき行為とされてしまうから。

オ 善きにつけ悪しきにつけ自己の内面的真実というものが必ず表現に先行して存在するものだとすれば、たとえば、たとえばのように善い行いをしたとしても内面的真実が正しくない以上は、結局それは悪い行いであつたと判定されることになってしまうから。

問四 傍線部 (c) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 7 にマークしなさい。

ア 一般には行為そのものの善悪を判断する基準に倫理性があると考えられているだろうが、表現が内面の真実をそのまま映し出すものだという考え方に立てば、自分のその気持ちや本当であるかどうかという点だけに倫理性が求められるということ。

イ ある行為が善行であるか悪行であるかは共同体のモラルやルールが決めることであつて、倫理性の有無と善悪の基準とは全く無関係であるのだから、その行為が真実であるか虚偽であるかということを判定するために倫理性が必要になるということ。

ウ 愛してもいないのに愛しているかのごとき表現をすることが罪悪だといふのはいすぎであつて、逆に憎しみを表現した場合は心の痛みを伴うことになるのだから、それならばむしろ愛しているかのような表現をする方が倫理的であるということ。

エ 愛してもいないのに愛しているかのごとき表現をすることは明らかに悪しき行為であるが、ひとを憎みそれを忠実に表現することの方がさらに重い罪悪になるのだから、善か悪かではなく自分自身の心の中に絶対的な倫理の基準を置くということ。

オ 個人を完成し理想人間像に到達するためには強く自己主張をしなければならぬが、その自己主張の内容の正しさを善とか悪とかいって基準で評価しても意味がないので、自己主張の倫理性は本当のことを言っているのかどうかにあるということ。

問五 傍線部 (d) の理由として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄

8

 にマークしなさい。

ア 表現は自我の真実に基づくものであるはずなのだが、しかしその自律性と倫理性までもが自我から奪回できているとはいいがたいので、まだどっちつかずな状態にあるから。

イ たしかに虚偽の表現は許しがたい罪ではあるのだが、表現の誠実さが相手を苦しめるだけではなく、自分の美徳とも合致していない以上、当然放棄すべきものであるから。

ウ その表現が相手を苦しめるかどうかは関係なく、自己の内面にある観念の美徳とは合致していない表現であるとすれば、それは誠実な表現とは言えないものになるから。

エ 憎悪を正直に表すと相手に精神的苦痛を与えてしまうので、配慮して表現を和らげたり変えたりすると、それは自身の内面に一致していない偽りの表現になってしまうから。

オ 表現が誠実であるかどうかという問題は、表現が相手に苦しみを与えるという問題に比べればあまり重要なことでもないので、むしろ放棄した方がよいと考えられるから。

問六 傍線部 (e) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 9 にマークしなさい。

ア 芸術的表現は行為的表現と比較しても非常に個人主義的な表現であるから内面もあくまで自己の下僕であったはずなのだが、いつのまにかその立場が逆転し、内面的真実に裏づけられた表現法さえも主人であるべき自己に対してまで異議申し立てをするように変わってきたということ。

イ かつてロマンティックな物語の主人公は自由で強烈な自己主張を繰り返していたのだが、やがてその手法が疲労して飽きられるようになる。すると物語の主人公たちは急速に自信を失って不安になり、自らが支配権を掌握していたはずの表現法からも否定されることが多くなってきたということ。

ウ 芸術的表現にはもともと倫理性が欠如しているので、作中人物の性格や行動も善悪という基準にはとられない自由なものとなっていくが、そのため小説の主人公が不羈奔放で感情を浪費するような行動をとるため、主人公を批判するような表現が少しずつ増え始めているということ。

エ 近代の作家たちは自分をさらけ出して表現することを少しずつ苦痛に感じるようになり、その疲労と倦怠のせいで文章や内容もコントロールできなくなってしまう、自分の意図であったはずの表現行為がいつのまにか創作主体であるはずの作者に反逆するようになってきたということ。

オ 十九世紀の文学は自己の内面にある真実を表すことが正しい表現の方法であるという信念に基づいて書かれていたが、しかし表現が過剰に豊かになるにつれてそれに相応すべき内面の真実が無内容であったことを自覚せざるをえなくなり、内面と表現の序列が逆転し始めたということ。

問七 傍線部 (f) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 10 にマークしなさい。

ア ロマンティシズムに対する幻滅が結果的にリアリズムを教えることになったが、リアリストたちは自我には幻滅してはいなかったで、それぞれの方法が大きく違っているように見えても、結局はどちらの立場も他我よりも自我を優先しており、自我の確立のために自己主張を行うという目標には違いがないということ。

イ リアリストたちはロマンティックたちが予期していなかった不安を感じてそれを出発のよりどころとしたが、しかし表現の優位には不安を感じていなかったため、それぞれの方法はかなり違っているように見えたとしても、どちらの立場も表現を優先しており、自己の真実をめざすという理想に違いはなかったということ。

ウ ロマンティシズムが単純かつ積極的に自己を主張する表現を行ったのに対し、リアリズムは自己を否定するような表現を行ったので、それぞれの方法は大きく違っているように見えるが、結局はどちらの立場も表現より自我を優先しており、自我の確立のために表現を行うという最終的な目的には違いがないということ。

エ リアリズムが自我の優位を絶対に放棄しないという表現を行ったのに対し、ロマンティシズムは自我の主張よりも感情の浪費を優先させていて、それぞれの方法は全く違っているように見えるが、どちらの立場も自我を尊重してはいるので、表現に自己保証を期待するという目的意識にはほとんど違いがないということ。

オ 十九世紀後半のリアリストたちは自己の内面が空虚であることに気づいていたので、ロマンティックたち以上に表現に自己保証を期待しなければならなかったが、しかしそれぞれの方法はあまり違ってはおらず、どちらの立場も結局は表現を重視しており、表現のために自己修行をするという動機に違いはないということ。

問八 問題文の内容としてふさわしいものを、次のア～カの中から二つ選び、解答欄 11 に二つマークしなさい。

- ア 自己の内面にのみ現実があると考える近代の社会においては、立派な人間になるためには自我の確立が必要だと考えられた。
- イ 芸術的表現は行為的表現よりも個人主義的であり、従って表現の倫理性は芸術的表現においてはさらに失われることになる。
- ウ 内面の真実が表現に先行すると考えた近代人は、内面には倫理性を問えないが、表現には倫理的な責任があると考えていた。
- エ 日本の近代化の過程においては民衆自身が近代市民革命の主体になろうとしたが、反動的な権力によって抑圧されてしまった。
- オ 神と自然と他人の支配を拒絶して自立した近代人は、間違った行為をしたとしても個人に責任を負わせることができなくなった。
- カ 近代日本の作家は社会に拒絶されて芸術に救いを求めたが、しかし芸術的な表現を实践することには重きを置いていなかった。

注意 文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は、次のページに問題が続きます。
←

問九 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

空欄 I に入る語として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 12 にマークしなさい。

ア 他我 イ 社会 ウ 個人 エ 自分 オ 功利

問十 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

空欄 II に入る語として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 13 にマークしなさい。

ア 正論 イ 王道 ウ 名分 エ 公益 オ 広言

問十一 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

波線部 W の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 14 にマークしなさい。

ア 表現を自我の確立のために利用しようとするような利己的な功利性ではなく、芸術を自律的で純粋なものにすることによってそれを社会から独立させようとする先鋭的な功利性。

イ 芸術を政治や社会などのために利用しようとする実用的な功利性ではなく、自我を確立するためならば自分以外の人間や物事はすべて犠牲にしても構わないという独善的な功利性。

ウ 敵をしも愛するような愛他精神に基づいて他我のために表現を行うという利他的な功利性ではなく、真実の自己主張を行うために表現の純粋化をめざそうとする倫理的な功利性。

エ 芸術を社会の役に立てようとする公共的な功利性ではなく、芸術と社会を対立させ、それによって社会から排除された自己の存在価値を回復しようとする個人主義的な功利性。

オ 表現から倫理性や効用性を除去して純粋化するという審美的な功利性ではなく、自我というわがままな暴君に服従し、その主人に貢献するために表現を行うという秩序的な功利性。

問十二 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

波線部 (X) の理由として最もふさわしいものを、次の A～オ の中から一つ選び、解答欄 15 にマークしなさい。

ア 十九世紀ヨーロッパの文学者たちは社会に自己の存在を否定されるという敗北感を自我の確立と一体のものとして経験したが、その過程を近代日本の文学者たちが手本にしようとした時、たまたま日本は近代化が不徹底で封建的な制度が存続していたので、ヨーロッパよりもさらに個人が現実社会に敗北しやすい条件が整っていたから。

イ 近代日本の文学者たちはヨーロッパの文学者に対抗して自我の確立と自由をめざしており、そのためには社会から拒絶され敗北するという経験をしなければならないと考えていたが、ちょうどどうまい具合に日本の社会的現実が軍国化の一途をたどっていたので、彼ら文学者は精神的な敗北者として社会から拒絶されることに成功したから。

ウ 敗戦直後の日本においては戦争で外国に負けたという敗北意識が非常に強く社会の空気を支配していたので、自我を確立するためにはヨーロッパの文学者と同じような敗北の経験が必要だと考えていた近代日本の文学者たちにとってみれば、そのような敗戦国の社会的現実には自分たちの願望にたまたまびつたりとうまく当てはまったから。

エ ヨーロッパの文学者たちは、独立と放縦とのゆえに近代の市民社会から拒絶されながら苦勞して自我の確立を達成することができたが、日本では市民社会がようやく萌芽として蠢動を始めていた時期であったため、文学者たちは参与したり手引きをしたりすることによって社会に受け入れられ、うまく自我の確立を果たすことができたから。

オ ヨーロッパは二百年も三百年もかかってようやく近代革命をなすとげ市民社会を成立させることができたが、たまたま日本はわずかの十分の一の年月で近代化を達成することができたので、近代日本の文学者たちはヨーロッパの文学者たちよりも急速な展開を経て近代市民社会の現実に直面し、自我の確立を果たすことに成功したから。

問十三 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

波線部 (Y) の説明として最もふさわしいものを、次の A～オの中から一つ選び、解答欄 16 にマークしなさい。

ア 近代作家の自我確立を拒絶した封建的な市民社会は、少しずつ考えを改め作家たちに参与と手引きを要求するようにならってきたのだが、しかし作家たちには相変わらず自己を拒絶する敵にしか見えなかったということ。

イ 近代日本における市民社会の形成のためには文学者たちの協力が不可欠であったはずなのだが、日本の作家たちは参与と手引きとの違いがわからなくなり、結局は市民社会を敵視するようになっていったということ。

ウ 近代の作家たちは、自分たちを拒絶する市民社会の人々よりも自我を確立できているという優越感があったが、しかし同時に拒絶された敗北感も心に潜んでいたため、市民社会を敵だと考えるようになったということ。

エ 日本に市民社会を作り出そうとする人々は、市民社会に拒絶されたヨーロッパの作家たちと、市民社会の形成に必要な日本の作家たちとの違いがわからず、どちらも自分たちの敵であると思ってしまうということ。

オ 日本の近代作家たちは、古い封建制度が残存する現実の日本社会と、これから生まれ出ようとしている本当の近代的な市民社会とを区別しないで、どちらも自分たちにとっては敵であると思込んでしまったということ。

問十四 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

波線部 (Z) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 17 にマークしなさい。

ア 近代の作家たちは社会から拒絶された悲しみや恨みを芸術至上主義によって晴らそうとしたが、彼らは社会に拒絶されることで自らの表現を成り立たせていたのだから、社会に対して抵抗する身ぶりは見せかけだけの寸劇めいた作り物にしか見えないということ。

イ 日本の近代作家たちにとって芸術は社会に拒絶された自分が救われるための手段にすぎなかったのに、その都合のいい考えを芸術至上主義だと思つてうぬぼれていた姿勢に、ヨーロッパ文学の表面だけを模倣することしかできなかった限界が表れているということ。

ウ 社会から拒絶されたヨーロッパの作家たちは切実な求道心によって救われたいと願っていたが、しかし彼らは高尚な芸術家を気取つてもっともらしくそれを演じていただけであつて、日本の側から見れば笑つてしまうような偽りの小芝居でしかなかったということ。

エ 作家たちは芸術こそがこの世で一番大切なものであると信じており、いかなる作品を書くかということよりも芸術というものが存在するという事実に自身の救いを見いだしていたが、これは芸術至上主義をわざと下手に物まねしたものでしかなかったということ。

オ ヨーロッパにおいて個人主義と芸術至上主義が発達したのは歴史的な必然であつたのだが、近代の日本人はそれを間違つて理解をしたまま模倣しようとしていたので、そのような身勝手な思い込みがまるで人々の笑いを誘う演芸のようにはしか見えないということ。

2

〔文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部の**選択**〕
この問題は、解答欄 **21** ～ **27** に解答すること。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(30点)

省 略

省 略

(注) ○アンチノミー―二律背反。

省 略

問一 二重傍線部(1)・(2)と同じ意味の語を、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、(1)は解答欄 に、(2)は解答欄 にマークしなさい。

(1)

21	ア	イ	ウ	エ	オ
	妨害	侵害	利害	弊害	残害

(2)

22	ア	イ	ウ	エ	オ
	なりふり	なりたち	なりあがり	なりかわり	なりゆき

問二 空欄 に入る語の組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、解答欄 にマークしなさい。

ア	I	必然的	II	偶然性
イ	I	偶然的	II	必然性
ウ	I	偶然性	II	必然的
エ	I	必然性	II	偶然的

問三 空欄 Ⅲ に入る語として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 24 にマークしなさい。

ア 牛耳を執る

イ 目から鱗が落ちる

ウ 人口に膾炙した

エ 酸鼻を極めた

オ 陰で舌を出す

問四 傍線部 (a) の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 25 にマークしなさい。

ア 幸福は必ず手に入れられるものだと確信し、自身を特別な存在だと考えることによって、かけがえない自分を担保できないのなら、もはや自己愛を維持する方法を模索することはできないということ。

イ この世に思いがけない事実などないと認識して、ただ一人の自分は存在しないと妄信することによって、自分だけの個性を獲得することを放棄したのなら、もはや自己イメージを維持する方法を模索することはできないということ。

ウ 世界は因果律に支配されていると認識して、自身を何ものにも代えがたい存在だとみなす偏見を捨てることによって、代替不能な自己であり続けることを避けられないのなら、もはや自意識を維持する方法を模索することはできないということ。

エ 努力は必ず報われるものだと過信して、自身を無くてはならない存在だと周知することによって、自分という人間の価値を存続させることを諦めないのなら、もはや自由を維持する方法を模索することはできないということ。

オ 出来事の結果は最初から決まっていると思いつき込み、自身を世の中に一人だけの存在だと捉えることによって、何ものでもない自分という状態から逃れようがないのなら、もはや自己同一性を維持する方法を模索することはできないということ。

問五 傍線部 (b) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 26 にマークしなさい。

ア 確率的な世界を生きる「すべては偶然」教が優勢になった時代の自分に自信を持った個人が、本能的に記述を忌避したために生じた自我の統一性を担保することによって精神を安定させようとするということ。

イ ただ一つの世界を生きる固有性を維持した存在としての自分の存在を確信している個人が、仮の避難所を獲得して個人を匿名化することによって精神を安定させようとするということ。

ウ 複数化した世界を生きる匿名化されない存在としての自分と再帰的コミュニケーションを図っている個人が、成功体験の結果として得られた成長と成熟を代償とすることによって精神を安定させようとするということ。

エ 唯一無二の世界を生きる取り替えのきかない存在としての自分という無根拠な思い込みを出来なくなった個人が、どこへ行っても同一性を維持できる一つのまごった心を持つことによって精神を安定させようとするということ。

オ 取り替えのきかない多重化した世界に身を投じて「人生は一回きり」と信じるようになった個人が、「次の人生」でも同じように成功を味わおうとすることによって精神を安定させようとするということ。

問六 問題文の内容の説明としてふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 27 にマークしなさい。

ア 自分の存在が唯一無二であることが揺らぎつつある現在、「キャラ」の持つ重要度が増してきている。なぜなら、「キャラ」とは、固有性とは異なる形で自意識の同一性と連続性を担保するものだからである。しかしその一方で、キャラ化は人格の向上の足かせになるものであり、また、たとえ本人にとって不本意なキャラ設定であっても、それを受け入れなければ、社会の中で存在感がなくなる恐怖にさらされるという問題がある。

イ 自分と他者との境界が曖昧になってしまった現在、「キャラ」の持つ重要度が増してきている。なぜなら、「キャラ」とは、固有性とは違った方法で、自意識の同一性と連続性を補完するものだからである。しかしその一方で、キャラ化された自己は精神の発展を遅らせるものであり、また、本人にとって不本意なキャラ設定でも、それを受け入れなければ、社会の中で良いポジションを得られなくなる不安に苛まれるという問題がある。

ウ 自分の存在の代替不可能性が保証され難くなった現在、「キャラ」の持つ重要度が増してきている。なぜなら、「キャラ」とは、固有性とは程遠い仕組みで、幸福の才能を持続させる装置だからである。しかしその一方で、キャラ化された自己は人間性を陶冶する上での障害になるものであり、また、本人にとって不本意なキャラ設定でも、それを受け入れなければ、社会の中で立場がなくなる怖れを抱くという問題がある。

エ 自分という人間が成り立つための基盤が脆弱ぜいじやくになってきている現在、「キャラ」の持つ重要度が増している。なぜなら、「キャラ」とは、固有性以外の論理で、相互理解を意図する性質があるからである。しかしその一方で、キャラ化された自己はコミュニケーションの不全を喚起するものであり、また、本人にとって不本意なキャラ設定であっても、それを受け入れなければ、社会の中での役割を果たせなくなるという問題がある。

オ 自分が自分であるという信仰が薄らいできている現在、「キャラ」の持つ重要度が増している。なぜなら、「キャラ」とは、固有性に拠りかからずに、自己同一性を成立させる機能があるからである。しかしその一方で、キャラ化された自己は自己イメージと固着しやすいものであり、また、本人にとって不本意なキャラ設定であっても、それを受け入れなければ、社会の中での高い地位を望めなくなるという問題がある。

3

〔文学部日本文学科・中国文学科・史学科は 必須〕。文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は 〔選択〕

文学部日本文学科・中国文学科・史学科は解答欄 41 ～ 59 に、文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は解答欄 41 ～ 56 に解答すること。

（文学部日本文学科・中国文学科・史学科は問一～問八で40点）

（文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は問一～問五で30点）

次の文章は、『大和物語』の一節で、平中（尉じょうの君きみ）が女とはじめて逢あった後の場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

省 略

(注) ○大井―大井川。都の西にある名所。 ○院―屋敷。 ○類して―連れ立って。 ○かいわがねて―輪にして。
 ○御達―女に仕える女房たち。

問一 傍線部(1)～(4)は誰に対する敬語か。最もふさわしいものを、次のア～キの中からそれぞれ一つずつ選び、(1)は解答欄 41 に、

(2)は 42 に、(3)は 43 に、(4)は 44 にマークしなさい。

ア 女 イ 使 ウ 御達 エ 府督 オ 平中 カ 院の人々 キ 亭子の帝

問二 傍線部(a)・(e)の意味として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、(a)は解答欄 45 に、(e)は 46 にマークしなさい。

<p>(a)</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; margin: 0 auto; padding: 2px; text-align: center;">45</div> <table style="width: 100%; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; margin: 5px 0;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">ア</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">イ</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">ウ</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">エ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">以前</td> <td style="text-align: center;">前日</td> <td style="text-align: center;">早朝</td> <td style="text-align: center;">翌日の朝</td> </tr> </table> <p>オ 翌日の晩</p>	ア	イ	ウ	エ	以前	前日	早朝	翌日の朝	<p>(e)</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; margin: 0 auto; padding: 2px; text-align: center;">46</div> <table style="width: 100%; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; margin: 5px 0;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">ア</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">イ</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">ウ</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">エ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">たぶん</td> <td style="text-align: center;">なぜか</td> <td style="text-align: center;">おそらく</td> <td style="text-align: center;">どうして</td> </tr> </table> <p>オ なんとという</p>	ア	イ	ウ	エ	たぶん	なぜか	おそらく	どうして
ア	イ	ウ	エ														
以前	前日	早朝	翌日の朝														
ア	イ	ウ	エ														
たぶん	なぜか	おそらく	どうして														

問三 傍線部(b)はどこに出かけたのか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 47 にマークしなさい。

- ア 大井に
- イ 女のもとに
- ウ 方違えの所に
- エ 平中のもとに
- オ 亭子の帝のもとに

問四 傍線部(c)・(d)・(f)の解釈として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、(c)は解答欄

48 に、(d)は

49 にマークしなさい。

48

に、(d)

(c)

48

- ア 今日でさえすぐに日が暮れてしまうだろう
イ せめて今日だけでもはやく日が暮れてほしい
ウ どうして今日に限ってはやく日が暮れないのだろう
エ どうか今日だけはすぐに日が暮れないでほしい
オ 今日こそきつともうすぐ日が暮れるだろう

(d)

49

- ア 以前から尼でいらっしやいました
イ とうとう尼になってくださいました
ウ すでに尼におなりになってしまいました
エ 早まって出家なさってはなりません
オ はやく出家なさってくださいませ

(f)

50

- ア 尼になったのも当然でしょう
イ 尼になるにちがいありません
ウ 尼にならなければなりません
エ 尼にならなかったのでしょうか
オ 尼になっていいはずがありません

問五 波線部の動詞 (一)「率」・(二)「来」の、

- 1 活用の行 2 活用の種類 3 活用形

は何か。該当するものを、次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、(一)の1は解答欄 51、2は 52 に、3は 53 に、(二)の1は 54、2は 55 に、3は 56 にマークしなさい。

- | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|------|
| 1 | ア | ア行 | イ | イカ行 | ウ | ウハ行 | エ | エヤ行 | オ | オラ行 | カ | カワ行 |
| 2 | ア | 四段活用 | イ | 上二段活用 | ウ | 上二段活用 | エ | 下一段活用 | オ | 下二段活用 | カ | 変格活用 |
| 3 | ア | 未然形 | イ | 連用形 | ウ | 終止形 | エ | 連体形 | オ | 已然形 | カ | 命令形 |

注意 文学部日本文学科・中国文学科・史学科は、次のページに問題が続きます。



問六 (文学部日本文学科・中国文学科・史学科のみ解答すること)

二重傍線部 A〜E の助動詞のうち「存在(所在)」の意味を表すものはどれか。最もふさわしいものを一つ選び、解答欄 57 にマークしなさい。

問七 (文学部日本文学科・中国文学科・史学科のみ解答すること)

二重傍線部 (X) はどのようなことを思っているのか。最もふさわしいものを、次の A〜オの中から一つ選び、解答欄 58 にマークしなさい。

A 平中が府督に呼び出されること

I 平中が再び女のもとを訪れること

ウ 平中が女のもとに使者を送ること

E 府督が平中を起こして誘うこと

オ 女が平中のもとに来ること

問八 (文学部日本文学科・中国文学科・史学科のみ解答すること)

二重傍線部 (Y) の説明として最もふさわしいものを、次の A〜オの中から一つ選び、解答欄 59 にマークしなさい。

A 「わびしきめ」とは、女が尼になったことを指し、「見る」のは平中である。

I 「わびしきめ」とは、女から手紙を受け取ったことを指し、「見る」のは平中である。

ウ 「わびしきめ」とは、女が尼になったことを指し、「見る」のは女である。

E 「わびしきめ」とは、平中が女のもとを訪れないことを指し、「見る」のは女である。

オ 「わびしきめ」とは、女から手紙で伝えることを指し、「見る」のは女である。

〔文学部日本文学科・中国文学科・史学科は **必須**。文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は **選択**〕

文学部日本文学科・中国文学科・史学科は解答欄 **61** ～ **69** に、文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は解答欄 **61** ～ **68** に解答すること。

（文学部日本文学科・中国文学科・史学科は問一～問七で20点）

（文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は問一～問六で30点）

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、問いの都合で返り点・送りがないを省いた部分がある。

省 略

(注) ○桓南郡―人名。 ○殷荊州―人名。 ○将佐十許人―将校十人あまり。 ○諮議―役職名。 ○羅企生―人名。

○戮―殺す ○出市―処刑のために市に出る。 ○晋文王―晋国の君主 ○嵇康―人名。

○嵇紹―人名。嵇康の息子。母親によく仕え、晋の皇帝にもよく仕えたことで知られる。

○羔裘―小羊の皮で作った服。 ○予章―地名。

問一 波線部(W)と(Y)の語が同じ意味で使用されている熟語を、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、(W)は解答欄 **61** に、(X)は

62 に、(Y)は **63** にマークしなさい。

(W) 素			
61	ウ	イ	ア
エ	素人	素行	質素
(X) 待			
62	ウ	イ	ア
エ	期待	待望	待機
(Y) 謝			
63	ウ	イ	ア
エ	謝恩	感謝	陳謝

問二 傍線部(a)の書き下し文として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、解答欄 **64** にマークしなさい。

ア 亦在ること焉んぞ

イ 亦焉んぞ在らんや

ウ 亦在らん

エ 亦焉に在り

問三 傍線部(b)の書き下し文として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、解答欄 **65** にマークしなさい。

ア 将が戮する所有りて

イ 将に戮する所有らんとするも

ウ 将を所にて戮する有るも

エ 将に有る所にて戮して

問四 傍線部(c)の意味として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、解答欄 66 にマークしなさい。

ア 今後、罪が許されるだろう。

イ 罪に当たる部分については、許す。

ウ 当然、罪を許してやるう。

エ 罪が許されるのは当たり前かもしれない。

問五 傍線部(d)の理由として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、解答欄 67 にマークしなさい。

ア 自分は殷荊州の役人で、主君の行方も分らないまま、敵に降ることが出来ないから。

イ 殷荊州の役人である自分が、敵に謝るには、自分の身分の高さから難しいから。

ウ 以前、厚遇された桓南郡に対して背いたため、どんな顔で謝罪すればよいか分らないから。

エ 主君も逃亡してしまったので、敗戦の責任を自分一人で取って、民を守ろうとしたから。

問六 傍線部(e)の意味として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、解答欄 68 にマークしなさい。

ア 嫌疑

イ 忠義

ウ 質疑

エ 音信

注意 文学部日本文学科・中国文学科・史学科は、次のページに問題が続きます。 ←

問七 (文学部日本文学科・中国文学科・史学科のみ解答すること)

傍線部 (f) の理由として最もふさわしいものを、次の ア～エ の中から一つ選び、解答欄

69

 にマークしなさい。

- ア 桓南郡が、元の主君である殷荊州を攻めて、忠義に背いたから。
- イ 自分の息子である羅企生を、桓南郡が処刑したことを知ったから。
- ウ 息子の羅企生が、自分を助けるために敵である桓南郡に従ったから。
- エ 桓南郡が、息子の羅企生を懐柔するために、自分に贈り物をしたから。

